忍冬(すいかずら)の片思い

氏原一郎

木枯らしに　ふるえながら
芽吹いたつぼみを　見つけました
春の終わりに　散った花が
もう一度咲こうとしています
遠い空からあなた見ていて
明日咲く　忍冬
あなたのいないこの世界
生きると私　決めました
ずっとずっと　天国への
片思い続けながら

陽だまりが　まぶた撫でて
優しいあなたの　声が届く
冬に負けない　花におなり
いつまでも泣いてちゃいけないよ
遠い空から　あなた守って
ひとり咲く　忍冬
身を裂く別れつらくても
歩いてみます　少しずつ
ずっとずっと　天国への
片思い続けながら

ずっとずっと　天国への
片思い続けながら

※楽曲制作の過程で詩が一部変更となる場合がございます

針の飛んだレコード

氏原一郎

ごめんねこんな　電話をかけて
偶然街で　見かけたのよ
素敵に歳を重ねたみたい
きっとあなたは　しあわせなのね
あの頃聴いてたラブソング
もう忘れたかしら
この胸の恋心　針の飛んだレコードよ
会いたいの会いたいの　ずっと繰り返し
グルグルと一人きり回ってる
この胸で一人きり回ってる

グレーになった　あなたの髪に
やさしく触れる　人がいるの
私のことは聞かないでいて
嘘は苦手よ　昔も今も
あんなに愛して泣いた日々
もう戻れないのね
あなたへの追憶は　針の飛んだレコードよ
愛してる愛してる　何度歌っても
グルグルと切なさがとまらない
あなたへの切なさがとまらない

この胸の恋心　針の飛んだレコードよ
会いたいの会いたいの　ずっと繰り返し
グルグルと一人きり回ってる
この胸で一人きり回ってる

※楽曲制作の過程で詩が一部変更となる場合がございます

リンゴの樹

大場和正

世界が明日で　終わると知らされても
わたしはリンゴの　樹を植えるだろう

あなたの生き方　愛しく思えて
初めて気づいた　背中の美しさ
ライ麦畑の　陽射しにつつまれ
転がり始める　希望の種たちよ
たぶん愛しているよ　きっと愛されてるよ
ずっと愛していくよ　だからさだからさ
一番近くの　しあわせ見つけた夜
マルティンルターの　言葉浮かぶよ

静かにさやかに　日暮れる街並み
あなたにあなたに　向かって歩き出す
わたしの歩みを　産み出す源
あなたという名の　あたりまえの暮らし
いつも少し離れて　そっと頬杖ついて
じっとあなたを見てた　だからだからさ
世界が明日で　終わると知らされても
わたしはリンゴの樹を植えるだろう

空は空を分けずに　星は星と競わず
そこに在るだけでいい　だからさだからさ
世界が明日で　終わると知らされても
わたしはリンゴの　樹を植えるだろう

※楽曲制作の過程で詩が一部変更となる場合がございます

月食

野殿英恵

夜明け間近
沈みかけの月
自分も乗る地球の影

真ん丸平らで　白く明る過ぎて
この世の苦しみが
ちっぽけで泣けるよ

あなたが目線　くれた日から
また会いたい　胸の高鳴り

月が好きなあなた
綺麗に撮れたと　見せてくれたね
今宵も観てるかな
同じ月観てるかな
幸せかな　会いたいな

いつの間にか
夜が長くなり
肌寒いな　夜明け直前

期限(きめ)ない別れが　ジワジワ締め付けて
苦しくもなるけど
信じて待ってるよ

あなたの言葉　別れ際の
また必ず帰って来ます

花が好きなあなた
真夜中の満月　明る過ぎだね
枝葉のシルエット
足元に　くっきりと
冬が来るよ　会いたいな

※楽曲制作の過程で詩が一部変更となる場合がございます

同じ時代(とき)に
同じ星に生まれ
分かちあえる　スゴイ奇跡

思い出たちが　まだ生々しくて
リモコンの再生
ちっとも押せないよ

あなたと悩み　重ねあえた
自分らしく生きて行こうと

姿消したあなた
必ずまた会おう　永遠(とわ)じゃないよね
今宵も思うから
また声を聴きたくて
何してるの？　会いたいな

ホントの姿で　輝き出した
1度消えて次に会うとき　どんなにか眩しい？

その日が来るの信じてるから
静かな夜　この暗闇　深いほどに歓喜

きっと…
ほら月がまた
輝き出す

※楽曲制作の過程で詩が一部変更となる場合がございます

自惚れさせてよ

美貴裕子

1,
逢ってることに　疲れるのよなんて
心にもないこと　口走っていた
年上おんなの　嫌味な返事
ふるえていたのは　若さのせいね
私えの愛の余韻が　あるからかしら
今夜だけ少し　自惚れさせてよ

2,
逢えなくなって　こころ空しすぎて
今もまだひとり　噂を聞くから
あれから何度か　声をころした
無言の電話に　ときめいていた
貴方だときっとそうだと　わかっていたの
今夜だけ少し　自惚れさせてよ

3,
逢いたくなると　夢をくれるカード
くり返し並べて　貴方をさがした
ハートが出るのは　心残りと
思いたくてまた　朝までつづく
私えの愛の余韻を　感じていたい
今夜だけ少し　自惚れさせてよ

※楽曲制作の過程で詩が一部変更となる場合がございます

そばがいい

美貴裕子

1．
向う横町(よこちょ)の　おそば屋さんに
今日も来ました　爺さまと婆さま
夕べあんなに　喧嘩したのに
そば屋に行くかに　ついほろり
おそばそばそば　手に手を取って
食べて笑って仲直り　おそばっていいねぇ。

2，
ひとつ丼(どんぶり)　すすった事も
思い出します　爺さまと婆さま
苦労七坂　おまえとふたり
登って下って　今がある
おそばそばそば　身にしむ味よ
わたし爺さまの側がいい　おそばっていいなぁ。

3，
何がなくとも　そばさえあれば
うれし泣きする爺さまと婆さま
おそばありゃこそ　元気でいれる
日本の味です　自慢です
おそばそばそば　身体も軽く
若さメタボに最高よ　おそばっていいねぇ。

※楽曲制作の過程で詩が一部変更となる場合がございます

思い出に会えたなら

斎藤大三

1，思い出に　会えたなら
思い出の人と　暮らそう
林の中の　小さな家で
静かな朝を　むかえよう
思い出の人は　愛した人
忘れられない人
さみしい夜に　やって来る
やさしい声の　あなたです

2，思い出に　会えたなら
思い出の街を　歩こう
銀杏の落ち葉　蝶々のようね
グレーのコート　黄昏に
思い出の人は　愛した人
忘れられない人
心のどこか　隅っこで
焚火をしてる　あなたです

※楽曲制作の過程で詩が一部変更となる場合がございます

明日のために

Mikey

乾いた空　尖った風　耳元を引っかいてゆく
理由なんて　わからないくらい　憂鬱な気分
不自然に　鮮やかな街　ぼんやりと歩き続ける
引きずる足の痛みだけ　妙にリアル

求めて　失くして　迷っても　まだ願うなら
恐れないで　もう自分で　答え見つけられるはずだから

なぐさめの言葉なら　そこらじゅうに
あふれてるけど　欲しいのは　もっと違うでしょ？
心の奥でまだ　眠ってる力を
目覚めさせて　明日のために

古びた箱　忘れた過去　入れたのは　ただのガラクタ
夢見たって　叶わないことに　気づいたとしても

独りで　心に　鍵かけて　閉じ込めないで
苦しくても　扉の向こう　待ってる人がいるはずだから

本当の優しさは　甘くないけど
大事なときは　いつだって　支えてあげるよ
傷つくたびにまた輝きが増すから
強くなれる　明日はきっと

スクリーンの中　姿重ねて
シンデレラストーリー描いてみても
意味がないよ　キリがないよ
変わらなくちゃ　自分から

なぐさめの言葉なら　そこらじゅうに
あふれてるけど　欲しいのは　もっと違うでしょ？
心の奥でまだ　眠ってる力を
目覚めさせて　明日のために

※楽曲制作の過程で詩が一部変更となる場合がございます

洗い屋の唄

砂川風子

何を洗いましょうか
心　涙　ふる傷
何でも　洗います
夜の　片隅の　僕は　洗い屋

小部屋の片隅　膝を抱え　泣かないで
思い出して下さい　僕がここにいる事

さあ　脱ぎ捨てましょう
心の　上着を
さあ　生まれ変わりましょう
誰より　きれいなあなたへと

いつを　洗いましょうか
昔　昨日　あの夜
いつでも　洗います
時の　片隅の　僕は　洗い屋

誰にもあります　しみのついた　ヒストリー
悔やまないで下さい　あれは生きるステップ

さあ　投げ捨てましょう
錆びつく　時計を
さあ生まれ変わりましょう
真白な　赤子の心へと

僕は洗い屋　どうぞ使って下さい
僕は洗い屋　誰よりあなたを守りたい
脆くて　優しい　あなたを

※楽曲制作の過程で詩が一部変更となる場合がございます

爪とチェリー

松本白馬

爪の形が　似てるな、なんて
考えながら　指を見ていた　喫茶店
君の頬づえと　緑のクリームソーダ

君はだまって　グラスの中ストローで
赤いチェリーを　何度も沈めていた
僕はだんだん　息がつまりかけていたんだ

あの頃　頭を悩ましてた
あれやこれやは　どこかへ消えて
思い出すのは
君の爪の形と　チェリーになった僕
僕はグラスの底で　今も沈んでる

学生なんて　悩みだらけで
なんとなく沈んでいた　夕焼け頃
熱っぽさ抱えて　冷えたコーラ飲んでた

今ではコーヒー　苦い顔で飲みほしてる
冷めてく頃合い　溶けやしないのに
砂糖沈めて　ジャリジャリのどに流している

あの頃　頭を悩ましてた
あれやこれやは　どこかへ消えて
思い出すのは
君の爪の形と　チェリーになった僕
僕はグラスの底で　今も沈んでいる

あの頃　頭を悩ましてた
あれやこれやは　どこかへ消えた
覚えてるのは
君の爪の形と　沈んだチェリーと
君が一度もチェリーを　食べなかったこと

※楽曲制作の過程で詩が一部変更となる場合がございます